



〒108-0071

港区白金台

3-7-1

3443-5666

<https://shirokanedai-kg.minato-ky.ed.jp/>



雨の音に合わせて、バケツの底を叩いて鳴らす3歳児



静かな雨の森を散歩する4歳児



栽培物の水やりなどに使うため、雨水を貯める実験をする5歳児



幼児期の遊び=学習

園長 佐々木 勝世

子どもたちが入園、進級してから約2か月半が経ちました。新しい生活に慣れ、子どもたちは園庭を中心に元気に遊んでいます。梅雨の時期でも、子どもたちは園庭や自然への関心をもち続け、雨が降っても、晴れていても、自分たちで楽しみを見付け出しています。

さて、幼稚園では、「遊びを中心とした総合的な指導」を通して、子どもたちを育てています。幼児期の遊びは、学習であるとも言えます。しかし、「遊び=学習」と言われても、なかなかピンとこないかもしれません。

では、そもそも幼稚園での「遊び」とは、いったいどのようなものなのでしょう。考え方はいろいろありますが、その一つをここで紹介します。

遊びとは…主体的な「自己決定」と「問題解決」の繰り返しによる「自己実現」の営み

幼稚園での遊びは、「あなたは今からこれをしなさい」などと、誰かに与えられるものではありません。子どもたちが自分で見付けたり、考えたりして創り出すものです。

何をして遊ぶか、誰と遊ぶか、どこに場をつくるか、何を使うか、どんな方法をとるかなどは、全て自分で選び、決定します。

したいと思ったことが、いつもうまくいくわけではありません。作り方が分からない、一緒に遊ぶ友達と意見がぶつかる、でも自分一人だけでは難しいなど、遊びの中では様々な問題に直面します。それらの問題を試行錯誤しながら解決していきます。そして、解決の過程で様々な気づきを得たり、友達と思いを伝え合い、力を合わせることを経験したりします。

そして、あきらめずに自分の思いが実現できたときには、やった！楽しかった！またやりたい！今度はもっとこういうふうにしてみよう！などと、満足感や更なる意欲をもちます。

これらの経験は、小学校以降の学習に向かう姿勢、さらには「人生をどう生きるか」に直結するものであり、まさに重要な学習であるといえます。

本園では引き続き、遊びを中心とした幼児期にふさわしい生活を通して、「自分のよさや可能性を信じ、多様な人々と協働しながら豊かな未来社会を切り拓くことができる力の基礎」を子どもたちに育んでまいります。

<7月の指導のねらい>

3歳児

- 水の冷たさや心地よさを感じながら、いろいろな水遊びを楽しむ。
- 着替えや所持品の始末など、身の回りのことを自分でやってみようとしたり、できるようになったりする。

4歳児

- いろいろな水遊びを通して水に親しみ、自分なりの動きを楽しむ。
- 自分の思いやイメージを言葉や動きで表現し、相手の思いを知って自分なりに受け止めようとする。

5歳児

- 自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えに気付いたりしながら、友達と一緒に遊びを進めていくようにする。
- プール遊びや水遊びを通して、繰り返し挑戦したり、自分なりに試したり工夫したりすることを楽しむ。
- 身近な自然や栽培物を見たり、世話をしたりして面白さや変化に気づき、友達と伝え合う。

